

むっちりピチピチ女性がもっこりブリーフ型水着 の水泳青年を逆ナン プールの女子トイレ内で夢 中でセックス 青年は童貞だった

ミイナは白く出っ張った飛び込み台に片足をかけて周りを見渡した。

休日のプール。ここは普段はスクールをやっているが、土曜のこの日は開放日。まばらに人が泳いでいる。

子供たちも水しぶきを立て、無邪気に元気に泳いでいる。

どちらかと言うと子連れが多い。プール以外にもスポーツジム、ゲームセンターなども敷設された総合的な施設である。

平和な午後のひととき。照明が明るく空調の効いた温かい室内プール。

午前中、正午少し前にやってきて、1時間ほど泳いだ後だった。

泳ぐのも飽きたし・・・ということで少し休憩しようかなと思っていた。

ミイナがこのプールへ来たのは単なる遊びである。

今はOLとして働くミイナだが、学生時代は少しだけ水泳をかじったことがあった。小さなころから泳ぐのが好きで、だけど社会人になってからはあまり

行く機会も少ない。この日はふと思い立ってやってきた。

すると、男子更衣室から一人の男性が出てきた。まだ若くあどけなさもある青年。学生のような。体は男性にしては少し白く、上半身はとても筋肉質である。普段から泳いでいる体をしていた。それにしては肌が白いのは、ここは室内プールのため日焼けはしていないということだろうとミイナは推測した。

!!!

ミイナは彼を見ると、本能反射のように両足のひざをくっつけるようにへの字に折って少ししゃがんで腰を落とした。

アキトのブリーフ型水着がとんでもなくもっこりしていたのだ。

くっきりとペニスの形が、濃い紺色の水着の全部の中心に浮き出て全ての肉質がそこに集約されているかのよう。股間の下部に垂れ下がっていた。

重さで水着の形が変わってしまっている。

それとは対照的に体は脂肪のかけらもなく締まっていて、それでいて筋肉質で全体として華奢。ペニスだけがまるで別次元のようにもっこりしている。

ミイナはほほ咄嗟（とっさ）に声をかける。

「あの！！そのペニスのサイズって素敵すぎますっ！！私と、エッチなこと
してほしいんです！！舐めまくりたいそのおペニス！！エッチなことたっぷり
したいです！！」

アキトは少しうつむき、自分の突き出た水着を見て言った。

「ああ・・・これですか・・・ま、まあ・・・確かに大きい方かもしれな
いですね・・・ははっ」

アキトは続けた。

「こ、この水着・・・先日新調したばかりなんですよ！！」

少し火照っているミイナをごまかすように。

話を逸らすように。

遠出をして、行きつけの水着ショップとは別の場所で事前に調べて最高のも
のを買いに行ったのだと言った。

水泳では水着選びでもタイムなどかなりの差が出る。

これはアキトが本気で水泳に取り組んでいる証拠でもあった。

更に続けるアキト。

「このプールで、平日はスクールの生徒として練習を頑張ってるんです」

ミイナの予想は当たった。

「泳いでる体ですもんね。それよりもその股間が凄いですけど・・・」

単に遊びでこのプールに来ただけの自分との違いにミイナはうっとりした。

スポーツに勤しみ頑張る青年。

恍惚の感情が染みわたるおっばい。

カラダに密着した水着にこっそりしまいこまれた、限りなく白に近い薄いピンクの乳首は勃起していた。

旨のサイズは人並み以上。多くの男性が思わず二度見してしまうほどの大きさだ。Eカップだった。

「頑張って練習してるなんて素敵すぎますっ！！」

頬も赤く染まっていた。

ミイナは続ける。

「あたし友達と一緒に来てて・・・今買い物してるの」

ミイナは友達もプールに誘ったのだが、私はミイナが泳いでいる間服見てるよと近くのショッピングセンターへ行った。

逞しく鍛え上げられた体。ブリーフの山をいっそう際立たせている。

————— 体験版は以上になります。 —————